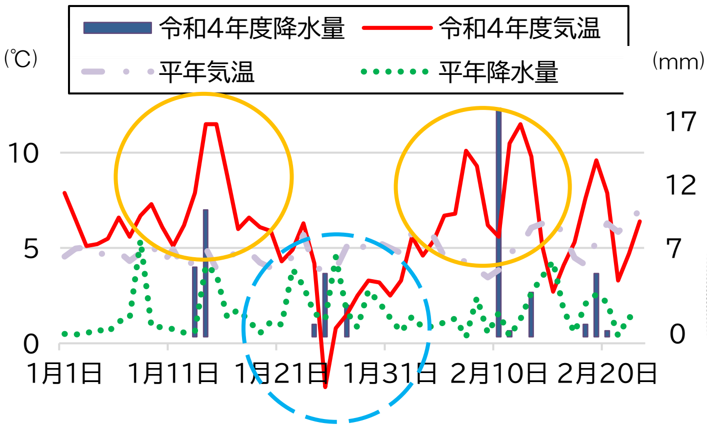
水田たより　３月号

令和５年３月１日
JA みえきた
桑名地域農業改良普及センター

気象概要と麦の生育状況

■気象概況について

桑名管内の気象は、１ 月上中旬、２月１０日前後に気温が平年より高くなりました（○部）。また、１ 月下旬に平年より冷え込みました（◌部）。今後は平年に比べて気温が高くなる見込みです。（名古屋地方気象台１か月予報、R5.2.23 発表）。



11/1～2/23 の概況
◇積算気温
956℃
(平年比 109%)
◇積算降水量
182 ㎜
(平年比 80%)
◇積算日照時間
649 時間
(平年比 107%)

■麦の生育状況(２ 月 17 日 生育基準田調査より)

地域	品種	播種日	令和 5 年産(3 カ年平均)		
			茎数(本/㎡)	葉齢 (L)	葉色(SPAD)
桑名・木曽岬	小麦「さとのそら」	11 月 10 日	1210(1076)	8.3(9.3)	47.9(48.1)
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	11 月 4 日	738(942)	7.8(7.9)	45.4(46.8)
	大麦「ファイバースノウ」	11 月 4 日	1144(1124)	6.7(8.2)	43.3(47.1)

生育基準田では、直近３年と比べると遅くなっていますが、栽培暦通りの生育ステージになっています。

また、全ての品種で幼穂形成が始まっているため、麦踏みは行わないで下さい。

■分施の場合の麦類への追肥

大麦 10 月下旬播種・小麦「あやひかり」11 月上旬播種・小麦「さとのそら」11 月中旬播種の場合

種類	内容	時期	窒素目安量	施用量(N=14%の場合)
小麦･大麦	２回目の追肥	３月中下旬 (止葉抽出始期)	1.5～2kg/10a	10～15kg/10a

※２回目の追肥は、止葉抽出始期に行いましょう。大麦は、施用量が多かったり、時期が遅かったりすると、硝子粒の増加につながるため、適期に適量を施用しましょう。

赤かび病防除について

４月になり麦の出穂期以降になると赤かび病の感染リスクが高まります。２月１３日現在、一部で凍霜害が発生しており、枯死した麦に形成された子のう殻が赤かび病の感染源になる可能性があります。適期に薬剤防除を行いましょう。

薬剤防除は、出穂期（令和４年産は「あやひかり」で４月９日頃、「さとのそら」で４月 12 日頃）から 7～10 日後に行い、予防防除を心がけましょう。また２回目防除を行う際は、１回目防除後の7～10 日後に行いましょう。

左：正常粒　右：被害粒

水稲の害虫対策

■スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

ジャンボタニシは寒さに弱いためほ場や水路の土中で越冬し、水温が概ね１７度を越える時期（５月頃）に動き始めます。対策は「秋冬の耕うん（令和３年９月号掲載）＋**春の薬剤散布**＋**浅水管理**」が基本です。毎年発生がみられるほ場では、特に注意し対策をとりましょう！

〇〈作業全体を通して〉未発生のほ場へ広げないために！

管内では、桑名市を中心にジャンボタニシの発生がみられます。未発生のほ場や地域へ人為的に貝を持ち込んでしまわないために、**①農業機械の土を洗い流してから移動使用し、②作業するほ場の順番を考慮し、発生量の少ないほ場から**行いましょう。

〇〈移植前と後の対策〉発生量が多いほ場では**浅水管理！**管理のための**ほ場の均平とり**

深水になる部分がでないようレーザーレベラーや丁寧な代かきで傾斜や凸凹をなくしましょう。

動き始めた後のジャンボタニシは水深４cm（理想は 1cm）以下では活動が制限されます。発生量が多いほ場では、水稲が食害を受けやすい**移植から４葉期までは浅水管理**を行います。

〇〈４月以降の対策〉動き出したジャンボタニシへ**薬剤防除**

４月に移植するほ場ではジャンボタニシの活動を確認したら、**５月に移植するほ場では田植時に**薬剤を散布すると効果的です。**薬剤散布後７日間は湛水状態にし、落水やかけ流しを行ってはいけません**。また、５月下旬以降に移植するほ場では、代かき（仕上げ）前の石灰窒素散布が有効です。ただし、石灰窒素は肥料効果があるため、基肥を減らすなど倒伏への注意が必要です。

■ニカメイチュウ、トビイロウンカ

ニカメイチュウ（幼虫）

〇**ニカメイチュウ**の幼虫は稲ワラや刈り株などで越冬します。近年、管内ではいなべ市・東員町を中心に発生がみらます。

第１世代は４月下旬から７月上旬に、第２世代は７月中旬から発生し、水稲は**食害によって葉鞘が黄褐変し、心枯れ**を生じます。

トビイロウンカの被害

〇一部の**ウンカ類**は６月から７月に中国大陸からジェット気流に乗り飛来します。増殖力が強く、**短期間で世代を繰り返し、個体数を増やします**。発生が多いほ場では**坪枯れ**を生じます。

〇いずれの害虫も、対策には、個体数が増える前の**初期段階での防除**が効果的です。長期間効果の持続する**箱粒剤を使用し予防的防除**を行いましょう。

獣害対策　防護柵の点検・補強

いなべ市、桑名市多度町などの中山間地域では、獣害による農作物被害が毎年発生しています。防護柵が十分効果を発揮するには継続的な点検や補強が必要です。**水稲作付け前に必ず行いましょう！**

柵と地面に隙間を作らないために
下部を竹やパイプで物理的に補強

破損した部分を
針金でタスキ掛け補強

侵入意欲を減退させるために
トタンや除草シートで目隠し